

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 11月23日

【評価実施概要】

事業所番号	3670200033
法人名	社会福祉法人 緑樹会
事業所名	グループホーム 癒音
所在地	徳島県板野郡北島町中村字中内26 (電 話) 088-697-3788
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 11月 16日

【情報提供票より】(平成19年10月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	14 人
利用定員数計	18 人
常勤7人, 非常勤7人, 常勤換算 癒音 I 5.3人, 癒音 II 5.3人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨かわらぶき 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日 当たり (1ヶ月) 40,000円			

(4) 利用者の概要(10月30日現在)

利用者人数	11 名	男性	5 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.5 歳	最低 78 歳	最高 88 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	津保整形外科
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

県道を少し入り、田園地帯に位置している。両隣に医院、寺院、また近くにスポーツ施設、春には色とりどりに咲くチューリップの花畑があり、人通りが絶えない。グループホームは和風の2階建てであり、門先の格子戸をくぐり玄関に入ると、静かな雰囲気の中で利用者や職員の元気な声が聞こえる。経営理念は玄関、リビング、事務所内のわかりやすい場所に掲示されている。職員はその理念のもと、利用者一人ひとりの安全に配慮しながら、グループホーム「癒音」の名のとおり、利用者の方々に、ここを「癒しの場」と思ってもらえるようにとの想いを持って日常生活を支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>利用者、家族、訪問者、職員にわかりやすい内容の理念が作られ、玄関、リビング、事務所等に掲示されている。また、利用者の権利・義務については、契約書に明記されている。利用者の情報、その他、伝達事項等は申し送り簿に記名または捺印し共有している。緊急時対応についてはマニュアルも整備され、看護師を中心に定期的に訓練をしている。職員を育てる取り組みとしては法人全体で年間研修計画をたて、実行している。なおホームでの生活の様子等をホームだよりとして市町村、地域、家庭に配布するなどの工夫が望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、管理者、職員が評価の意義をよく理解しており、全員で評価に取り組み、前回の評価結果をもとに改善に努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は決められた委員の参加によって開催し、利用者の暮らしぶりやグループホームの取り組み等を報告し話し合いをしている。地域の方達の利用者への理解も深められ、地域の一員として受け止められるようになり交流の機会も出来ている。しかし、現在までに3回のみで開催となっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>今までにあまり大きな意見が出ていない。家族の来所時、家族会等の機会を利用し、積極的に話してもらえる雰囲気作りが心にかけている。家族からいただいた意見は十分に受け止め、グループホームの運営に反映している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元の小学校の運動会や夏祭り、秋祭りに地域の一員として参加し交流を深めている。また近隣の障害者施設とも交流している。散歩中、畑仕事をしている地域の住民から、野菜をもらうなど良い関係作りがされている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で考え作ったグループホーム独自の理念を、玄関、事務所、リビング等に掲示している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人全体、グループホーム独自の理念を、管理者と職員は毎日、朝、昼、夕の申し送り時に唱和することにより共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の小学校の運動会、夏祭り、秋祭り等に地域の一員として参加し、交流を深めている。また、近隣の障害者施設の方達とも交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価・外部評価を実施する意義を理解しており、前回の評価結果をもとに、運営理念、他を見直し、全員で具体的な改善に取り組み、ケアの質の向上に活かしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、グループホームの取組み状況報告、運営について提案事項の検討、続いて認知症など関連疾患について学習をしている。検討事項、意見はサービス向上に活かしている。しかし現在までに3回のみ開催となっている。	○	運営推進会議は2ヶ月に一回、定期的開催される事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者はよく市町村を訪問し、担当者に相談やグループホームの実情を報告しているが、連携するまでには至っていない。	○	利用者の生活の様子や行事予定等を入れたホーム便りなどを作り、市町村担当者に見て貰うなどし、ホームを知ってもらい積極的に関わって貰えるよう取り組んで行かれない。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の一人ひとりの暮らしぶりや、健康状態、金銭管理、職員の異動等を書き込み、一ヶ月に1回メッセージカードとして、家族に郵送している。また、変化があればその都度必要な情報を報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会等にて出た意見を、ホーム内で管理者、職員で検討し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職や異動時、その都度利用者には「また、すぐ帰ってくるからね」等と十分に話をしている。利用者にとっての重要事項等は十分引き継ぎをし、ダメージを少なくするよう努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて育成するために年間の研修計画を立てている。また、法人内での研修では一つのテーマを三回に分けて開講し、全職員が受講出来るよう配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での支部研修や県外施設への現場研修を行っている。また、町内の他のグループホームと会議、その他で情報交換をしサービスの質の向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族と相談し、初期のケアの方針を決めている。また、外出や外泊等の機会を設け安心感が得られるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事全般について、利用者に教えてもらったり、その都度アドバイスをしてもらうなど支えあう関係がみられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	在宅での生活ぶりや希望、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見、希望を反映し作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の期間に応じて見直しを行なうとともに、また本人の状況変化に応じて、その都度見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして受診や入院の負担が少なくなるよう柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族、かかりつけ医、事業所との話し合いのもと、利用者の馴染みのかかりつけ医で対応し、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対応については、本人や家族等とよく話し合い、方針を全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないような対応や言葉かけが出来るように研修会等を通して取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務に巻き込まないよう、日々利用者の希望に添って利用者のペースで生活出来るよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力を活かしながら毎日の食事を買い物から調理、配膳等利用者と一緒にしている。また、机を囲み楽しそうに話をしながら、食事をしている。利用者の食べたいものにメニューを変更したり、菜園で育った野菜を取り入れたりし、食事を楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴出来るように対応している。入りたくないと言われる方は時間をずらしたり職員を替えたりして対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を活かした役割、楽しみ事等を一緒にやり支援している。咲き終わった鉢植え等を植え替え、育て、また花を咲かせ楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、食事会等希望に添って、外出できるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の動きに注意し見守りを強化するなど、日中玄関に鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年間2回実施している。近隣にも協力依頼をし、また緊急連絡網等を整備している。消防署にも依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分が必要量確保できるよう、法人の栄養士が来所時に栄養バランスのチェックを行っている。そして食事時、おやつ時間、風呂あがりなどこまめに水分補給の支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和紙で作られた照明具の光のもと利用者にとって、穏やかな気持ちで居られるよう配慮され、壁には塗り絵されたカレンダーや写真が貼られている。窓から周囲の畑など外の景色を見ながら毎日を過ごせるよう工夫をしている。また、生け花や飾り等で季節感が感じられるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベッド、布団等一人ひとりの好みの物を取り入れ、ホーム炬燵、仏壇等が置かれ、本人にとって居心地よく過ごせるような工夫をしている。		